

最優秀賞

平和のヒマワリ

見澤 富子 埼玉県所沢市 六十三歳

今年ボランティア先の日本語教室で避難民のSさんに会った。Sさんはロシアによる侵攻で家を失い、家族とも離れ離れになった。家族が守ってきたひまわり畑には、いま遺体が埋まっているという。生い茂る緑に身を潜めた人もいたはずだ。手を合わせ祈った人もいるだろう。Sさんによればひまわりは家族の支えであり、味方だった。下を向けばちいさな新芽に元氣をもらい、青空が見えない涙の日には上を向くチカラをもらった。その花言葉は平和。太陽に向かってまっすぐ伸びる姿が心に平和をもたらしてくれたことは間違いない。

「アノコロニモドリタイ」

Sさんの涙が私たちの心を動かした。

「平和への祈りを込めてひまわりを植えましょう」

私たちはSさんと市役所の広場にひまわりの種をまいた。ひまわりが開花するまでは二ヶ月。いつかSさんが家族と再会できてたらいいし、笑って過ごせたら、もっと、いい。そんな願いを込めて、最後は、手を合わせた。

あれから二ヶ月。Sさんは日本で就職活動を始めた。あの場所にもようやくひまわりが咲いた。青い空に黄色いひまわり。やさしく交わる青と黄色がウクライナの平和を祈っているように見えた。